

青森市産官学連携プラットフォーム

私立大学等改革総合支援事業タイプ5（選定：平成29年度）

青森市産官学連携プラットフォーム



青森明の星短期大学

取組のポイントや補助効果

- ◆ 競争的パートナーという意識の芽生えと職員のキャリアアップ
- ◆ 産官学、地域連携の日常化

青森明の星短期大学は、青森市内にある2018年に創立55周年を迎えた短期大学である。キリスト教の精神に基づき、教養教育をベースにした人間教育を実践している学校である。

当短期大学が青森市産官学連携プラットフォームを取りまとめている関係から、当短期大学においてプラットフォームを構成する大学（当短期大学、青森大学、青森中央短期大学、青森中央学院大学、青森公立大学、青森県立保健大学）の各代表と、青森市、青森商工会議所のメンバーが一堂に会し、取材に応じてくれた。

取組の目標・目的

青森市に存する大学・短期大学はこれまで、それぞれの機関ごとに地域振興に取り組んでいたが、2016年度から共同でIR、SD、研究、学生募集に取り組むなど大学間連携が活発になってきた。特に地方大学の振興や経済の停滞については、少子高齢化の進行とともに地域課題となっており、大学と青森市の活性化を一体的に考える必要があった。

そのため、産官学のプラットフォームを形成し、各機関の取り組みの共通点を6項目に絞り中長期計画を策定した。その結果、全37事業となり、そのうちの22事業に対して数値目

標を設定した。主に三つの観点から紹介する。

一つ目は人材育成の観点であり、学生数の増加、卒業生の地域定着の向上、若者の起業などの取り組みがある。地元の高校生をはじめ、函館などの津軽海峡圏の高校生が青森市内の大学に進学しやすい環境を整え、地域に貢献できる人材として育成することを目標とした。この取り組みでは青森に残ることだけではなく、青森を離れても「青森を誇れる」、「挑戦を誇れる」人材育成を目指している。

二つ目は地域経済の観点から、大学の教育及び研究資源を活用した新ビジネスの開発などを目標とした。青森の自然、食文化、観光などの資源を組み合わせたヘルスツーリズムの商品開発、「ロサンゼルスねぶた」への参加やインバウンド対応などに取り組むものである。

三つ目は学びの推進の観点から、社会人・女性の学び直し、地域の教育支援活動の推進、市民と学生が参加できる公開講座の増加などを目標とした。

取組に至る背景や問題意識

産官学の連携を強固にすると考えた背景には、地元高校生の青森市内大学への進学率が低いという危機意識があった。進学率が低い

理由は市内にある大学の伝統や歴史が浅いことと、経済的に苦しい家庭が多いことが挙げられる。経済的な理由で進学できず、専門学校への進学や就職というケースが多い。

もう一つの理由として、大学からの魅力発信が足りなかったことがある。そのため、これまでそれぞれの学校で実施していた広報活動や学修・研究成果の公開などをプラットフォームとして広く市民に周知を図りたいと考えるようになった。

取組内容

プラットフォームのコンセプトは「若者が誇れる街」、「挑戦を誇れる街」である。青森を誇りに思い、挑戦することを誇りに思う人材を育成するために以下の取り組みを行っている。

まちづくりに関する具体的支援

産官学において防災における連携を定期的に点検している。検討項目は「避難所の運営について」、「防災訓練について」、「防災士の育成及び自主防災組織率の向上について」の3項目である。現在、プラットフォームを構成する全大学・短期大学が地域住民の避難所となっている。

商店街の活性化

青森市内には複数の商店街がある。主に市内の「しんまち商店街組合」、「浪打銀座商店街」などに、各大学・短期大学が活性化のために関わり、その活動をプラットフォームが後援している。商店街においても高齢化は進んでいるが、そこに学生が入って一緒に広報などを考えることで商店街を活気づけている。

具体的には、SNSなど商店街の人たちが使い慣れていない情報発信方法を、商店主の方々と若い学生が意見し合い、それが刺激と

なり新しいPR方法を検討していくという取り組みなどである。

食育、健康、生涯スポーツ等の推進

食物栄養学科を持つ青森中央短期大学が中心となり「あおり食育検定」（あおり食育サポーターの資格）の受験者数の増加への取り組みや、青森県立保健大学を中心として「あおり健やか力検定」の受験者数増加の支援、生涯スポーツ教育として青森大学の野球部による小学校児童への野球教室など、それぞれの大学の特色を生かした取り組みを実施している。

また、「青森市内6大学がもたらす経済効果」についての研究では青森公立大学の学長を中心としたチームが調査報告を行うなど各大学が連携しながら取り組みを実践している。

共同のFD・SD

2017年度には2短期大学及び1大学において共同でFDを実施しており、それをプラットフォームが後援した。2018年度には青森明の星短期大学と青森大学共催の学びの森セミナーを共同FDとして後援している。

共同のIR

共同IRは主に短期大学同士で行い、参加校には青森中央短期大学、青森明の星短期大学、八戸学院大学短期大学部が参加しており、3短期大学のディプロマ・ポリシーに基づく「学習成果に関する自己評価尺度」10項目について幼児保育系の学生を対象に実施している。

IR人材を育成するためにもプラットフォームの私立4大学・短期大学が共同で教員を研修会に派遣して知識の共有化を図った。今後もこのような連携・協力体制を構築してIR人材や、カリキュラム・コーディネーターなどを養成し、業務の共同化に発展するように取り組んでいきたい。

≡ 学生募集活動等

共同学生募集活動に関しては函館地区の高校を対象にした共同説明会と共同高校訪問がある。2017年は私立大学・短期大学4校で行ったが、共同説明会については公立大学2校も加わり、今年は6校で実施した。2019年には行政も加わり函館に「AOMORI SIX」が行く！という盛り上がりを見せている。高校訪問については初等中等教育機関との意見交換会で「高校訪問はまとめて来てくれるとありがたい」など高等学校側の意見を取り入れ、複数大学が一緒に訪問した。



函館地区での共同説明会

8月には6大学による共同オープンキャンパスを開催した。「情熱無限大 AOMORI SIX FESTIVAL」と題して青森県総合社会教育センターで、文化祭のような雰囲気の中、各大学で役割を分担して実施した。参加した高校生も大変喜び、各大学のメンバーも充実感を持って取り組めた。

また、プラットフォーム事業に先立ち、5月に広報事業として「情熱無限大



共同オープンキャンパスの様子

「AOMORI SIX」と題して6大学合同で青森市役所駅前庁舎1F「駅前スクエア」にディスプレイを並べプロモーションビデオで学校紹介をする取り組みをした。



実施体制

取りまとめ校である当短期大学に事務局を置き、専従職員を配置して事務処理を行っている。各機関の担当職員で事務局を運営している。

私立大学だけでなく、公立大学2校の参加はプラットフォーム運営がより強力なものとなる重要な要素であった。さらに「挑戦を誇れる街づくり」には青森市が、「地域産業の振興」には青森商工会議所が事務局の構成員となり、それぞれの役割を果たしている。特に商工会議所は青森市と各大学の活性化のパートナーとして運営に関わっている。各大学の学長はそのリーダーシップによって、プラットフォームと学内が連動するように人的配置をしている。

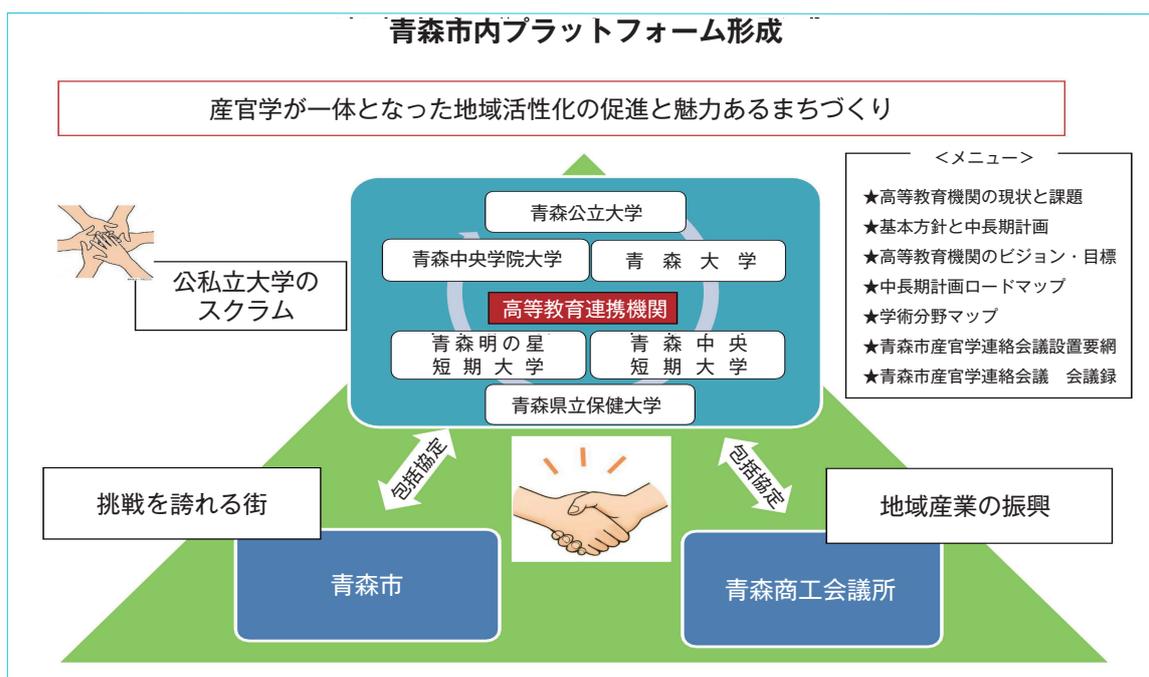


図 青森市内プラットフォーム

取組後の変化

始めたばかりの取り組みであるため、参加した学生や保護者、教職員についてはアンケートを実施し、意見の把握に努めている。ただ、他大学からの視察や他県の行政からの問い合わせは多く、プラットフォームへの外部の関心の高さがうかがえる。

実際に取り組みを実施した商店街などからは地域が活性化した等の意見があった。

成功のポイントや苦労した点

苦労した点は各大学や行政等とのコンセンサスを得ることであった。しかし、当短期大学学長の強い人脈とコーディネート力の上に各機関の学長や理事長等の深い理解によって、合意が形成された。

成功したポイントは、産官学が一体となって連携したことで、大学職員の意識に変化がみられたことである。プラットフォームの事業において従前の学校事務ではできない経験をしたことによって、職員がキャリアアップした。また、2017年度には当短期大学から青

森中央学院大学に職員を1名派遣し、人事交流を行ったことから、競争的なパートナーシップの芽生えとともに職員間の連携が深まったことが大きい。

今後の活動に関しても、職員の意識の変化がこの取り組みのエンジンとなり、支え、力を与えていく。

今後の課題・展望

今後の課題の一つは、単位互換や施設の共同利用等における共通の問題として、移動する交通機関の不足が挙げられる。単位互換については各大学で行いつつあり土壌はあるため、これからは駅前キャンパスや商工会議所が所有する駅前のスタートアップセンターなどを利用し、課題の解決に当たりたい。

もう一つの課題は教員の意識改革である。この取り組みの継続や改革には教員の協力が不可欠であるため、職員だけでなく教員の意識改革も非常に重要となる。

引き続き大学と地域の活性化を図るため、青森市産官学連携プラットフォームを盛り上げていきたい。